



ご み た せいじ

五味田 聖二 氏

生年月日 昭和 15 年 11 月 9 日生

住 所 田辺市稲成町

昭和 15 年、西牟婁郡田辺町（現田辺市）に生まれる。

氏と合気道のかかわりは、昭和 28 年（当時 13 歳）にまで遡る。警察官の親戚から「変わった技をやる人がいるから、見に行こう」と田辺署の道場を訪ね、そこで帰郷していた植芝盛平翁が、真剣に向かってくる警察官を軽々と投げ飛ばしていたその光景に衝撃を受け、その後、親と親戚の勧めもあり入門する。当時の規定で道場生は高校 1 年生以上であったが、特例で中学 1 年生で門弟となった。

以来、現在に至るまでの 65 年以上の長きにわたり、合気道に人生を捧げてきた。

合気道は、植芝盛平翁が日本の伝統武術の奥義を究め、さらに厳しい精神的修行を経て創始した現代武道だが、相手といたずらに強弱を競わず、また、他人と優劣を競うことをしないため、試合や競技を行わない。このような熊野の世界観にも相通じる合気道の精神に氏はたちまち引き込まれ、「^{おおせんせい}大先生」と呼ばれる盛平翁のもとで日々鍛錬を積み重ねた結果、昭和 40 年（当時 25 歳）の時に合気会五段位を取得。大先生から、高山寺にある田辺道場長に任命され、合気道の普及、指導に全力を傾ける。

昭和 56 年には、稲成町に百畳敷きの大道場「合気道田辺道場（稲成道場）」を開設し、以来、現在に至るまで道場長として多数の門下生を指導するとともに、地域内の道場にも出向き、合気道の普及に励んでいる。なお、田辺道場は稲成道場以外に、高山寺道場、扇ヶ浜武道館道場、白浜道場、日高武道館道場がある。

その他、和歌山県合気道連盟の要職（平成 12 年から副理事長、平成 24 年からは理事長）を務めるとともに、平成 21 年から植芝盛平翁顕彰会理事長、平成 24 年からは全日本合気道連盟理事にも就任し、植芝盛平翁を顕彰する「合気道国際奉納演武」の開催に尽力する。以来、関係者・関係団体と共に同演武を毎年開催し、世界 20 カ国の合気道家が参加する大会へと成長させるなど、国内外における合気道競技の普及及び発展にも大きく貢献している。

また、道場や連盟の運営に多忙な中、自身の鍛錬を怠ることなく、平成 18 年に八段位を取得。これは東京都新宿区にある合気道本部道場でも八段位の現役指導者は僅か 8 名しかいない資格となる。

第 51 回 (令和 2 年)

令和元年 11 月に開催された「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」では、紀南文化会館を会場に合気道が初開催となり、公益財団法人合気会の協力のもと、田辺道場をはじめ全国から約 250 名が演武を披露する交流大会が実施され、氏は公益財団法人合気会や関係機関・団体との調整のほか、交流大会で監督的な役割を務め、大会を成功に導いた。

今や数少ない大先生の直弟子として、小学生から高齢者まで幅広い世代に合気道とその精神を丁寧に指導するとともに、武道指導充実に係る地域外部指導者として、田辺市で合気道を授業に取り入れている中学校 6 校のうち 5 校において、保健体育科教員と連携して指導を行うなど、合気道と共に人としてのさらなる高みを志すその姿は多くの人々から信望を集め、合気道の普及・伝道師としてのその功績は多大である。

(学 歴)

昭和 34 年 3 月 和歌山県立田辺商業高等学校 (現神島高等学校) 卒業

(職 歴)

昭和 45 年 五味田カイロプラクティック療術所

昭和 28 年 合気会 入門

昭和 40 年 合気会五段位取得、高山寺道場を借りた田辺道場で道場長として指導を開始

昭和 56 年 稲成町に「合気道田辺道場 (稲成道場)」を開設、道場長となる

平成 18 年 合気会八段位取得

(役職等)

平成 12 年 和歌山県合気道連盟 副理事長 (平成 24 年まで)

平成 14 年 田辺市体育連盟 副会長 (平成 21 年まで)

平成 21 年～ 植芝盛平翁顕彰会 理事長

平成 24 年 和歌山県合気道連盟 理事長 (令和元年 3 月まで)

平成 24 年～ 全日本合気道連盟 理事

令和元年 4 月～ 和歌山県合気道連盟 副会長

(受賞歴)

平成 31 年 2 月 第 57 回和歌山県スポーツ賞 功労賞

令和 2 年 10 月 日本武道協議会 武道功労賞